

★全体的に生育は早く、高温の影響でさらに進む可能性有り

1 君津地域の生育概況

4月20日頃に移植した「ふさおとめ」、「ふさこがね」の出穂期は、平年と比較して2～3日程度早くなっています。成熟期は早いところで「ふさおとめ」は8月10日頃から、「ふさこがね」は8月17日頃からと予測されます。「コシヒカリ」については、4月20日頃の移植分は、成熟期が8月25日頃から、5月1日頃の移植分は、成熟期が8月28日頃からと予測されます。

全体的に生育の進みがやや早く、7月初めから続いている高温の影響でさらに生育が進む可能性
 があります。特に、4月上中旬に植えた早植えのコシヒカリでは、一段と生育が早くなっています。

今後も各ほ場をよく見て、生育の進みに応じた作業を適期に実施しましょう。

2 県作柄調査ほ等の調査結果

品種	年	田植え日	出穂期	成熟期予測
ふさおとめ (袖ヶ浦市)	29	4/17	7/8	8/10
	平年	4/16	7/11	-
	平年比	+1	-3	-
ふさこがね (君津市) ※2	29	4/20	7/11	8/17
	平年	4/19	7/13	-
	平年比	+1	-2	-
コシヒカリ (君津市) ※2	29	4/16	7/18	8/25
	平年	4/20	7/17	-
	平年比	-4	+1	-
コシヒカリ (木更津市)	29	4/29	7/21	8/28
	昨年	5/1	7/23	8/30

※1 平年値は過去10か年(2007～2016年)平均値。ただし、木更津市のほ場は26年から調査を始めたため、平年値はなし。

※2 29年の君津市ふさこがね及びコシヒカリは一発肥料を施用している。

※3 「出穂期」とは、ほ場の40～50%の穂が「出穂」したとき、「出穂」とは穂先が茎から少しでも顔を出したときです。

※4 「成熟期予測」は、平年並みの天候の場合の収穫期の目安であり、出穂期から「ふさおとめ」で33日前後、「ふさこがね」で37日前後、「コシヒカリ」で38日前後です。

3 これからの管理のポイント

① 刈り取りは適期に行いましょう。

収穫は登熟状況を十分に観察し、帯緑色籾歩合 15%の時にいきましょう（注：帯緑色籾歩合は主稈と思われる太い茎の穂を選び、不稔籾を除いて数えます。図を参照）。

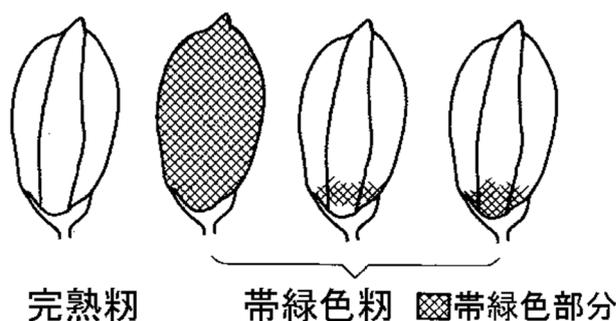


図1 帯緑色籾の見分け方

② イネ縞葉枯病の発生と防除対策について

千葉県では、ヒメトビウンカが発生やイネ縞葉枯病の症状が増えており、対策を講じなければ被害が拡大する恐れがあります。

イネ縞葉枯病はヒメトビウンカによるウイルスの媒介によってのみ感染することから、ヒメトビウンカを防除することが対策のポイントです。



図2 ゆうれい症状



図3 穂の出すくみ症状

〔防除対策 1〕収穫後の早期耕うん

収穫後の再生株（ひこばえ）はヒメトビウンカの生息地となるため、個体数を増加させます。また、すでに感染している株を吸汁することでウイルスを持っている個体の割合が高まります。個体数を増加させない、保毒虫率を上げないためには、一刻も早い耕うんが必要です。できるだけ早い時期の耕うんを実施しましょう。

〔防除対策 2〕周辺雑草の除草

ほ場周辺の雑草（特にイネ科雑草）はヒメトビウンカの越冬地になります。ほ場周辺の除草を行い、越冬虫数を減らしましょう。

〔防除対策 3〕ウンカ類に効果のある苗箱処理剤の使用（来年作における対策）

（※栽培期間中に発病が見られ、再生株でも発病株率が3%以上の場合）

収量に影響する発病時期は幼穂形成期頃（移植2ヶ月後頃）までです。それまで効果が続く、ウンカ類に登録のある苗箱処理剤（スターダム箱粒剤、デジタルメガフレア箱粒剤等）を施用しましょう。

—農業事務所より郵便で配信している方へお願い—
稲作情報の配信を郵便から、電子メールまたはFAXに切り替えを進めています。
電子メール・FAXをお使いの方は、下記までご連絡ください。
連絡先 青木 y.aoki31@pref.chiba.lg.jp 0438-23-0299（電話）